

# 教育センター ニュース

教育支援課  
マスコットキャラクター  
しえん君



四日市市教育委員会 教育支援課 〒510-0085 四日市市諏訪町2-2(四日市市総合会館6階)  
TEL (354)-8283 (代) FAX (359)-0280

ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>

## 長所と短所

副教育長 寺村 明彦

昨年の11月20日付で、思いもよらぬ年度途中の人事異動となり、副教育長を仰せつかることになりましたが、まさに、青天の霹靂というのが正直な感想でした。あれから3カ月が過ぎましたが、教育委員会で仕事をした経験も無かった私にとつては、日々飛び込んでくる各課からの報告や相談にどのように対応していったらよいのか、また、それが適切な対応なのか、教育長や教育監に教えていただきながらの毎日です。私としては、周りの人の意見や考えをできる限り聞いたうえで物事を進めていきたいと思っています。

リーダーシップは長所には違いないかもしれませんが、部下の意見をあまり聞き入れないタイプとなると、時として独善的という短所になります。また、周りの意見を聞くというのは協調性という長所とも言えますが、時には優柔不断という短所とも言えます。

長所と短所は、表裏一体のものであり、発出するTPOによって長所となり、あるいは短所となるだけではないかと思えます。自分の短所に思い悩み、短所の改善に過度に着目するよりも、また、下手をすると、「角を矯めて牛を殺す」ことになるよりも、長所を活かす努力のほうがベターではないか、そんな風に自分の二人目の子育ての頃から思うようになりました。

先生方ご自身もそれぞれに長

所と短所を持ち合わせながら、教室では、いろいろな子どもたちの長所と短所に日々接する中で、ともすれば短所に目が行きがちになるのではないのでしょうか。ぜひとも、先生方ご自身がその長所を活かしながら、子どもたちの短所に着目し過ぎず、長所に目をやっていただく教育を、と願っています。

今後とも、よろしく願っています。



# 研究報告

平成23年度、教育支援課で取り組んできた研究を報告します。それぞれの研究にあたり、御協力いただきました先生方及び学校・園、関係機関に心よりお礼申し上げます。この研究の成果が、今後の学校・園での実践に広く活用されることを願います。

➡ご覧ください

各研究の詳しい内容は  
教育センターホームページ  
教育情報データベース

<http://yec.db.city.yokkaichi.mie.jp/>  
で4月からご覧になれます。  
(市内小・中学校・幼稚園のみ)



第388集

研修・研究グループ 長期研修員 坂下博夫 研修員 今井啓介

## 小学校算数科における「非連続型テキストを読む力」の育成に関する研究 ～ICTをツールとして～

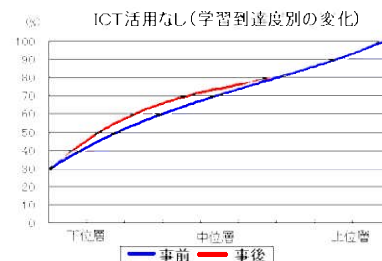
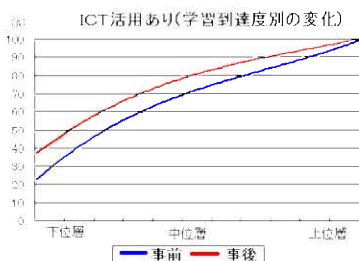
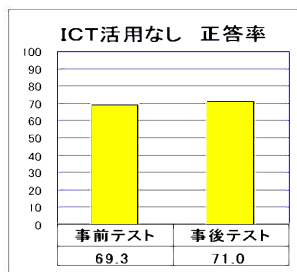
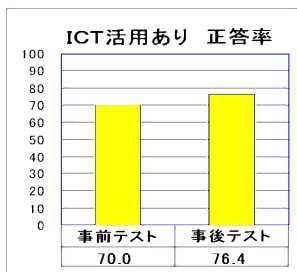


執筆者からの一言

ICT活用の効果は意欲の向上だけではありません。シミュレーションを工夫すれば、児童の思考を助けることができ、「学び方の補完」となります。



「非連続型テキストを読む力」をつけるために、ICTを活用して指導を行いました。6年生の算数科の単元「算数の目で見てみよう」で、グラフが伸びるなどのシミュレーションをした結果、児童の読む力を向上させることができました。シミュレーションは思考の流れを可視化するだけでなく、課題の焦点化にも効果的でした。児童の手元と同じものを大きく映す書画カメラの使用は、表現の共有化につながりました。



第389集

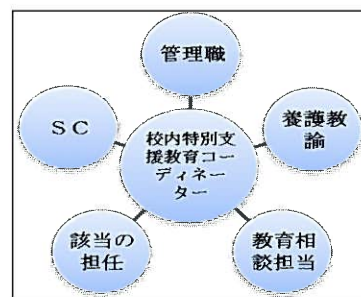
四日市市適応指導教室 市森幸子 古森ゆかり 渡辺由紀

## 学校における不登校及び不登校傾向生徒への効果的な支援方法に関する研究 ～登校支援委員会での取り組みを中心に～

登校支援委員会が中心となって組織的に登校支援に取り組むことが、不登校問題の状況を改善する一つのアプローチであることが明らかになりました。他にも、不登校になりやすい傾向にある児童の情報集約の範囲を広げ、「小中不登校連携シート」等で引き継ぐことは、未然防止の観点で効果的でした。また、欠席日数を意識し早期対応を行うことが、学校全体の登校支援の意識を高めるきっかけにもなりました。

<登校支援委員会とは>

登校しぶりの兆候や登校支援を必要とする生徒の情報を把握し、継続して支援方針の検討を行う委員会です。また、専門機関との連携に関して、コーディネーター的な役割を担います。



【例 登校支援委員会組織図】

執筆者からの一言

校内の不登校生徒への支援を中心となって担う場が明確になることで、小学校との連携や継続した支援方針の検討等が行いやすくなります。



# 教育支援課 研修・研究グループから

四日市市教育委員会教育支援課 平成23年度

## 重点課題研究推進校の紹介

### 笹川中学校

平成22年度から

#### 自他共に大切に作る心を育む～小グループ学習やICTを活かした学び合いのある授業づくり～



「基礎学力の定着向上」に向けて、「授業におけるICTの活用」を位置づけ、「学び合い」のある授業実践に取り組んできました。2年間の成果として、教師のICT活用も日常化し、生徒の学習意欲も向上しました。また、ICTを活用した授業に対して、本校スーパーバイザーである大阪教育大学木原俊行教授からアドバイスをいただき、活用の幅が広がりました。



### 中部西小学校

平成23年度から

#### 自分の思いや考えをもち、「学び合う」子どもの育成



今年度から、これまで研修してきた「人とのかかわりを重視した授業づくり」の取り組みを生かし、子どもの「学び合い」を視点に置いた研修を始めました。子どもが主体的に学習に取り組む、確かな学力を育むために「学び合う」場を設定した授業実践に取り組んでいます。子どもの実態を把握し、各学級の提案授業を観合い、事後検討する中で『中部西小版;学び合う子どもの姿の3段階』を作成し、学校全体の取り組みとして研修を進めています。



### 浜田小学校

平成23年度から

#### 学び手である子どもに寄り添い子どもの瞳が輝く授業をしよう！

#### ～「聴き合う つなぐ 学び合う 深まる」授業を取り入れる～



浜田小学校では、寄り添う教育をモットーに、子どもの目線に立って授業を展開しようと授業改革に取り組んでいます。それは、子どもたちの「聴き合い」「学び合う」活動を通して、いかに子どもたちの考えを「つなぎ」「深めて」いくかということを追究することです。



### 平成24年度 重点課題研究推進校の実践発表の実施予定

学校名	期 日	時 間	会 場	内 容
浜田 小学校	8月10日(金)	10:00-12:00	総合会館 7階	浜田小学校教員による中間発表会
	12月4日(火)	10:00-17:00	浜田小学校	授業研究会, 事後検討会, 研究総括発表会
中部西 小学校	8月10日(金)	14:00-16:00	総合会館 7階	中部西小学校教員による中間発表会
	11月30日(金)	14:00-17:00	中部西小学校	授業研究会, 事後検討会, 研究総括発表会

# 「ICTを活用した授業研究」報告

本年度は、全ての学校で「ICTを活用した授業づくり（ICTを活用したわかりやすい授業）」をテーマにした授業研究が行われました。この取り組みの成果が各学校だけでなく全ての学校の研修や授業づくりに広く生かされていくことを期待します。

「ICTを活用した授業実践」は  
教育センターHPをご覧ください。



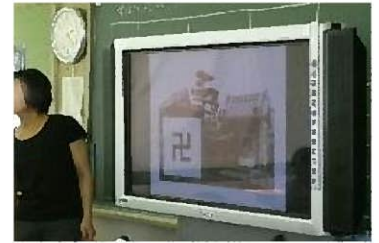
<http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>

## 全ての学校の授業研究を訪問して ～ICTの効果的な活用～

### 導入

#### 知識定着，関心・意欲喚起のためのツール

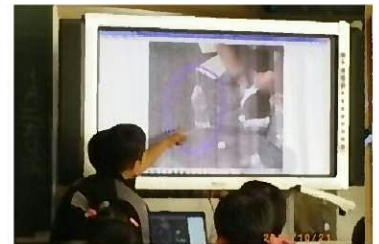
授業の導入では、ICTを活用したフラッシュ型教材や音読教材が用いられていました。どの学習活動も、本題に入るための重要な導入であり、子どもの振り返り学習や反復学習、動機づけなどにICTが有効に活用されていました。



### 展開

#### 問題解決のためのツール

授業の展開では、子どもたちの様々な意見やアイデアが電子黒板を使って発表されていました。子どもたちは、自分がかいた絵や文章、図案をただ映すだけでなく、何が問題か、原因となるものは何かなどを指さしながら話し合っていました。これまで子どもが理解しにくかったところに書画カメラやデジタル教材を効果的に使ったことにより、より深い学習活動が行われるようになっていきます。



### まとめ

#### コミュニケーションのためのツール

授業のまとめでは、子ども自らがICTを使って発表している姿を多く見ることができました。「自分のノートを見てほしい」「友だちのノートや発表も聞きたい」という言葉が教室に飛び交い、意欲的に発表できる子どもが増えてきています。



## ICTコーディネーター研修会より ～取り組みの成果と課題～

活用の効果を共有  
できた

ICTは活用場面で  
使い分けが必要

豊富なデジタル教材  
をもっと活用しよう

使っている学級、使わない  
学級があっいいのか？

教員にスキルの差がま  
だまだある。対策は？



本年度は、ICTコーディネーターが設置されて1年目です。教員のICT活用指導力や子どもの情報活用能力の向上のための中心的役割となってきました。今回の研修会では、「教員のスキルの差」が未だ学校の課題として残っていることが報告されました。




今後は、各学校において教員のニーズや実態に合わせた個別の研修会や教科間の連携、小・中学校の情報共有を行っていくことが確認されました。

## 不登校の子どもを支援する

## 適応指導教室・わくわく教室のご案内

教育支援課では、不登校の小学生の子どもたちの支援として、保護者相談と子どものプレイセラピーを行っています。しかし、学校に登校できるようになるまでには、小集団でソーシャルスキルトレーニング（SST）を行うことが必要な子どももいます。そこで、子どもたちが、友だちと関わりながら様々な経験を重ね、少しずつ自信をつけていくことを目指す「わくわく教室」を開き、不登校の子どもたちを支援しています。

### わくわく教室

 時間	毎週金曜日の午前10時から12時まで
 場所	相談支援センター・集団学習室（総合会館6階）
 指導者	適応指導教室指導員 教育支援課職員

### 活動例



#### 集団活動（10：00～10：50）

- ① はじまりの会（みんなであいさつをしよう）
- ② ウォーミングアップ（からだを動かそう）
- ③ ゲーム（友だちと楽しく遊ぼう）
- ④ 終わりの会（活動を振り返ろう）



#### 個別学習活動（11：00～11：50）

希望者に、不登校による学習の遅れに対して教科学習を行う。

### < 相談の流れ >

#### 申込み

【保護者】

学校と相談の上、教育支援課に教育相談の申込み（予約）を行う。

Tel 354-8285

#### 来所相談

【保護者と子ども】

< 2週間に1度の来所を継続 >

教育支援課に来所し、保護者は相談員と教育相談を行う。  
子どもは、セラピストとプレイセラピーを行う。

#### わくわく教室

【子ども】

子どもの心的エネルギーが回復され、集団活動に移行してもよい状態になれば、わくわく教室に入級が可能となる。



# U-8事業(4つの教室)は

## 教室終了後のお子さんの支援を考えます!!



お子さんに対する、園・学校と保護者の連携・・・  
U-8事業は、その連携の一助を担っていきます

「あゆみ(※)」渡し  
相談支援ファイルの作成

4つの教室(教育支援課)

< 提案 >

子どもの特性  
子どもと関わる時の大人の視点  
子どもへの支援方法 等

保護者



※「あゆみ」…各教室の修了時に、教室で行ったことやお子さんの支援方法の提案等を記載し、保護者にお渡ししています

支援・指導方法の確認



園・学校



4つの教室には期間が設けられていますが、その後の支援についても、必要に応じて、巡回相談や教育相談、電話相談等により、継続的に関わっていきます



## 教育支援課スーパーバイザーによる巡回教育相談



今年度は、小栗正幸先生(特別支援教育士スーパーバイザー)に全中学校を定期的に2回ずつ訪問していただきました。また、教育支援課の臨床心理士である今尾真弓さんには、要請のあった小学校に、年2回の巡回相談を行っていただきました。定期的に巡回相談を行うことについて、次のような感想が出されています。

### ～先生方からの感想～

- ☀️ 前期で指摘してもらったことを念頭に置きながら指導を行い、大きな成果を感じとることができた。
- ☀️ 前回は振り返りながら話ができたことで、生徒の理解度も大きく高まったと感じた。
- ☀️ 子どもが成長しているのか不安だったが、前期の様子と比べて見ていただいたことで、成長している点を教えていただき参考になったうえ、励みにもなった。



助言を活かす  
ために……

助言されたことを校内支援委員会や研修会等で広めていくことが大切です。担任一人が生徒を理解するのではなく、学校全体で理解し、学校一体となって支援をしていきましょう。

### ～小栗先生から～



子どものたちの将来像をイメージできるのは先生たち。将来の自立像をイメージして、実現するためにどうするかを一緒に考えてあげるといいでしょう。

小栗先生の最新著書の紹介 「行為障害と非行のことがわかる本」(講談社)

# 来年度も定期的に巡回教育相談をしていきます

